

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第2週の発生動向

トピックス

・**インフルエンザ（定点把握対象）**：第2週（1/7~1/13）の定点当たりの報告数は44.43と、今シーズン初めて流行警報レベル開始基準値（30.0）を超えました。昨シーズンと比較して2週間遅くなっています。詳細後述。

全数報告の感染症（2週までに新たに届出のあったもの）

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核4例。3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症1例。
4類感染症：報告なし。5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、百日咳9例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	女	無症状病原体保有者	—
			80歳代	女	肺結核	咳
			90歳代	女	肺結核	咳
		都城	50歳代	女	無症状病原体保有者	—
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	70歳代	女	—	腹痛、水様性下痢、血便、O165(VT2)
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	宮崎市	70歳代	女	—	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状

	疾患名	報告保健所	報告数	年齢群	年齢群	年齢群	症状
				5~9歳	10歳代	70歳代	
5類	百日咳	都城	5例	2	3		持続する咳、夜間の咳き込み
		高鍋	4例	2	1	1	

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は3,276人（定点当たり67.8）で、前週比251%と増加した（年末年始含む）。なお、前週に比べ増加した疾患はインフルエンザと伝染性紅斑で、減少した主な疾患は特になし。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

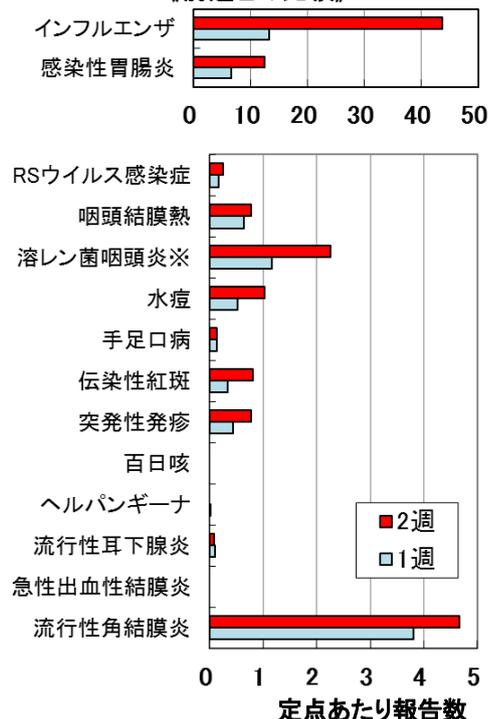
報告数は2,577人（44.4）で、前週比327%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*（32.3）の約1.4倍である。延岡（61.9）、都城（61.7）、小林（60.6）保健所からの報告が多く、年齢群別では10歳未満が全体の約5割を占めている。

【感染性胃腸炎】

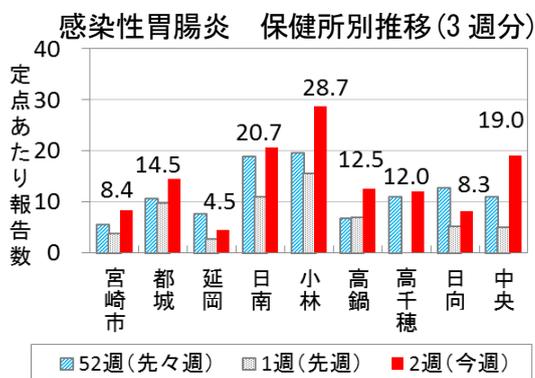
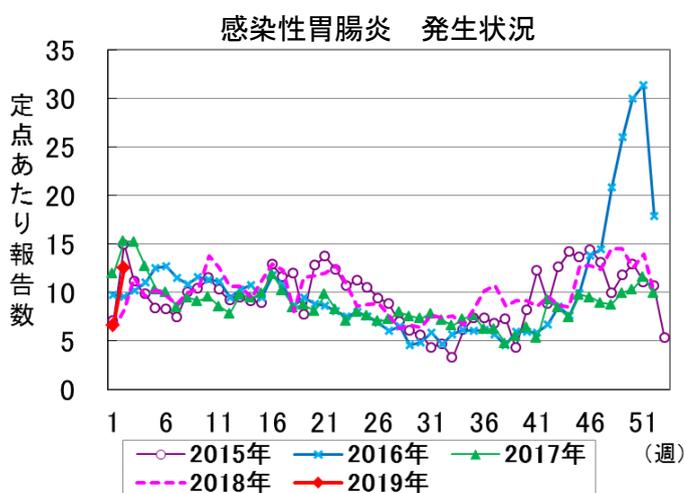
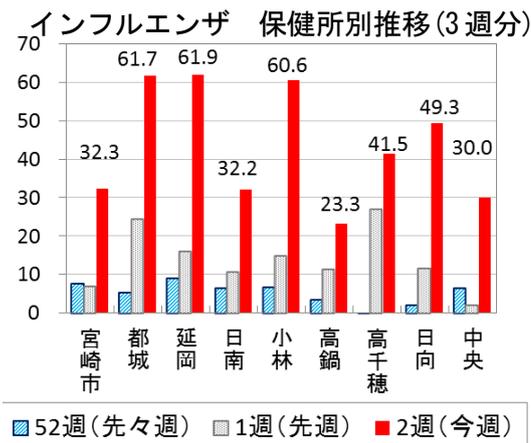
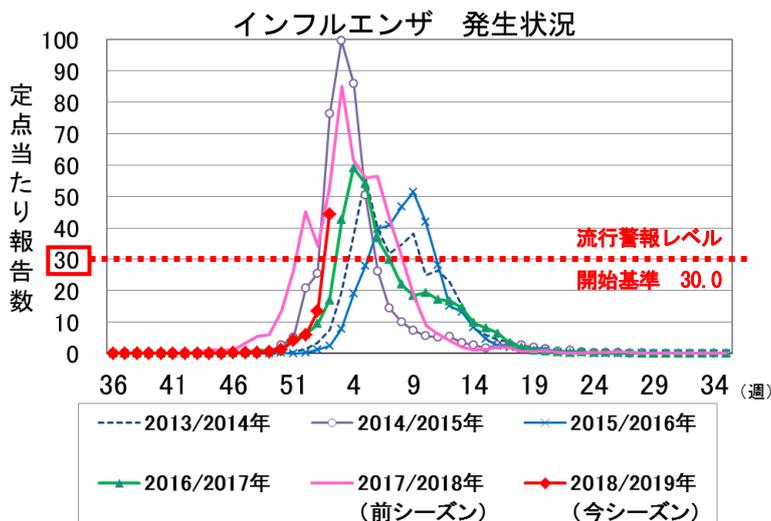
報告数は451人（12.5）で、前週比189%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*（10.9）の約1.2倍である。小林（28.7）、日南（20.7）保健所からの報告が多く、年齢群別では1~2歳が全体の約3割を占めている。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★
報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患	
宮崎市	インフルエンザ(32.3),水痘(1.4)	* 流行警報レベル開始基準値 *
都城	インフルエンザ(61.7)	・インフルエンザ(30.0)
延岡	インフルエンザ(61.9),水痘(1.0)	・感染性胃腸炎(20.0)
日南	インフルエンザ(32.2),感染性胃腸炎(20.7), 水痘(2.0),伝染性紅斑(3.0)	・水痘(2.0)
小林	インフルエンザ(60.6),感染性胃腸炎(28.7)	・伝染性紅斑(2.0)
高鍋	インフルエンザ(23.3)	
高千穂	インフルエンザ(41.5)	* 流行注意報レベル基準値 *
日向	インフルエンザ(49.3),水痘(1.5)	・インフルエンザ(10.0)
中央	インフルエンザ(30.0),水痘(1.0)	・水痘(1.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成31年1月14日までに検出）

★細菌

報告なし。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
エンテロウイルスD68型	0～4歳	男	2018.10.24	ウイルス性脳炎疑い、39.0℃、意識障害、脳炎	便 気管吸引液	2019.01.11
ライノウイルス	0～4歳	女	2018.11.23	けいれん重積、意識障害	咽頭ぬぐい液	2019.01.08
ライノウイルス	0～4歳	男	2018.11.28	38.0℃、頭痛、麻痺	咽頭ぬぐい液	2019.01.08

○ウイルス性脳炎疑いの幼児の便、気管吸引液からエンテロウイルス D68 型(EVD68)が検出された。EVD68 は主に呼吸器疾患の起因ウイルスとして知られているが、一方で麻痺症状のある患者からの検出も報告されており、中枢神経疾患との関連性が注目されている。国内では、2010年、2013年、2015年に流行がみられており、2018年9月以降、再び報告数が増加傾向にあるため、今後の発生動向に注意していく必要がある。

📊 全国 2019 年第 1 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第1週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	73例			
3類感染症	細菌性赤痢	1例	腸管出血性大腸菌感染症	8例	腸チフス 1例
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	6例	つつが虫病 8例
	デング熱	3例	マラリア	2例	レジオネラ症 20例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 7例
	急性脳炎	9例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6例	後天性免疫不全症候群 1例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4例	侵襲性髄膜炎菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症 45例
	水痘（入院例）	5例	梅毒	6例	播種性クリプトコックス症 2例
	百日咳	61例	風しん	45例	麻しん 8例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 90%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザで、減少した主な疾患は手足口病とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎である。

インフルエンザの報告数は78,116人(16.3)で前週比146%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*(12.9)の約1.3倍である。岐阜県(49.1)、愛知県(46.4)からの報告が多く、年齢群別では10歳未満が全体の約3割を占めている。

伝染性紅斑の報告数は1,167人(0.38)で前週比54%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値*(0.24)の約1.6倍である。宮城県(2.4)、新潟県(1.3)からの報告が多く、年齢群別では3～7歳が全体の約7割を占めている

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均

📊 月報告対象疾患の発生動向 <2018年12月>

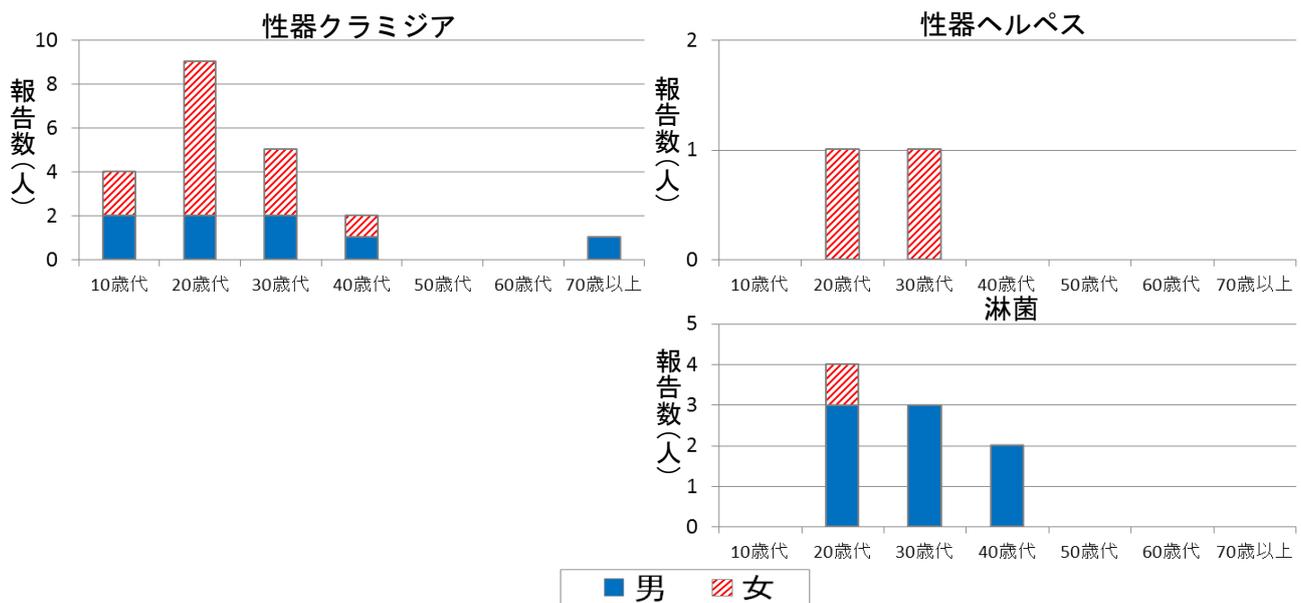
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は32人(2.5)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年12月(2.6)の94%である。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数21人(1.6)で、前月及び昨年12月の約1.1倍である。
20歳代が全体の約4割を占めている。(男性8人・女性13人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人(0.15)で、前月及び昨年12月の約0.3倍である。(女性2人)
- 尖圭コンジローマ：報告なし。
- 淋菌感染症：報告数9人(0.69)で、前月の3.0倍、昨年12月の1.8倍である。(男性8人・女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：978

定点医療機関からの報告総数は3,865人(4.0)で、前月比93%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,035人(2.1)で前月比90%、性器ヘルペスウイルス感染症743人(0.76)で前月比99%、尖圭コンジローマ411人(0.42)で前月比86%、淋菌感染症676人(0.69)で前月比103%である。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人(2.4)で、前月比121%と増加した。また、昨年12月(1.9)の131%である。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月の約1.2倍、昨年12月の約1.3倍である。70歳以上が全体の約6割を占めている。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：478

定点医療機関からの報告総数は1,477人(3.1)で、前月比98%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,340人(2.8)で前月比99%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症126人(0.26)で前月比84%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月と同率である。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2019年 第02週(01月07日～01月13日)

疾病名		第01週	第02週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	787	2577	484	617	433	161	303	140	83	296	60
	定点あたり	13.57	44.43	32.27	61.70	61.86	32.20	60.60	23.33	41.50	49.33	30.00
RSウイルス 感染症	報告数	6	9	4	1		1	1			2	
	定点あたり	0.17	0.25	0.40	0.17	0.00	0.33	0.33	0.00	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	23	28	3	5	10	3		2		5	
	定点あたり	0.64	0.78	0.30	0.83	2.50	1.00	0.00	0.50	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	42	81	16	12	14	7	4	12		14	2
	定点あたり	1.17	2.25	1.60	2.00	3.50	2.33	1.33	3.00	0.00	3.50	2.00
感染性胃腸炎	報告数	239	451	84	87	18	62	86	50	12	33	19
	定点あたり	6.64	12.53	8.40	14.50	4.50	20.67	28.67	12.50	12.00	8.25	19.00
水痘	報告数	19	37	14	4	4	6	1	1		6	1
	定点あたり	0.53	1.03	1.40	0.67	1.00	2.00	0.33	0.25	0.00	1.50	1.00
手足口病	報告数	5	5	2	1		1					1
	定点あたり	0.14	0.14	0.20	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	12	29	11		7	9		1		1	
	定点あたり	0.33	0.81	1.10	0.00	1.75	3.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	16	28	6	7	4	1	2	5		3	
	定点あたり	0.44	0.78	0.60	1.17	1.00	0.33	0.67	1.25	0.00	0.75	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	4	3			1	1				1	
	定点あたり	0.11	0.08	0.00	0.00	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	19	28	20	1	7						
	定点あたり	3.17	4.67	6.67	0.50	7.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週～2週)

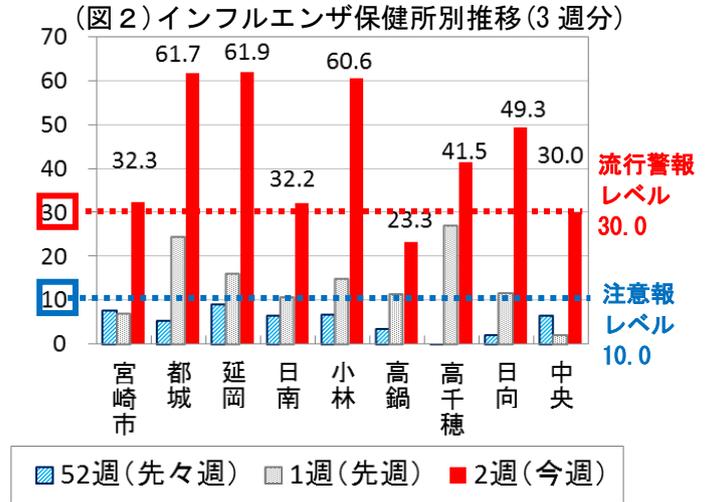
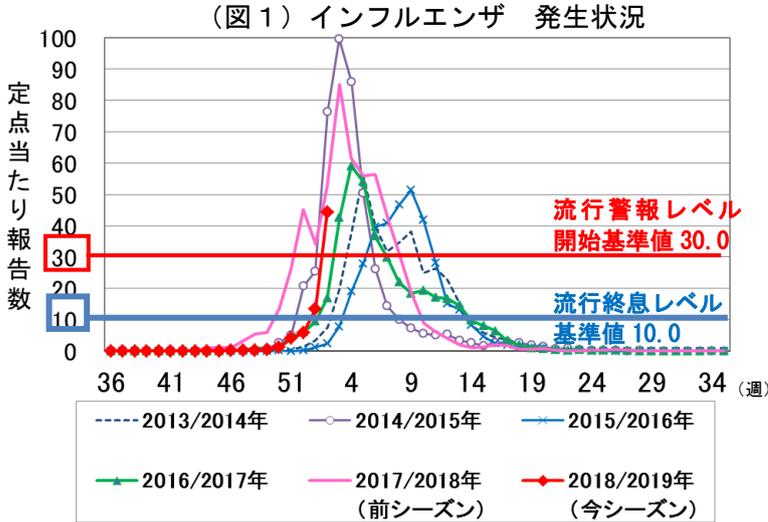
2類感染症	結核	4例(4)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例(1)		
4類感染症	つつが虫病	1例		
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例(1)	百日咳	10例(9)

()内は今週届出分、再掲

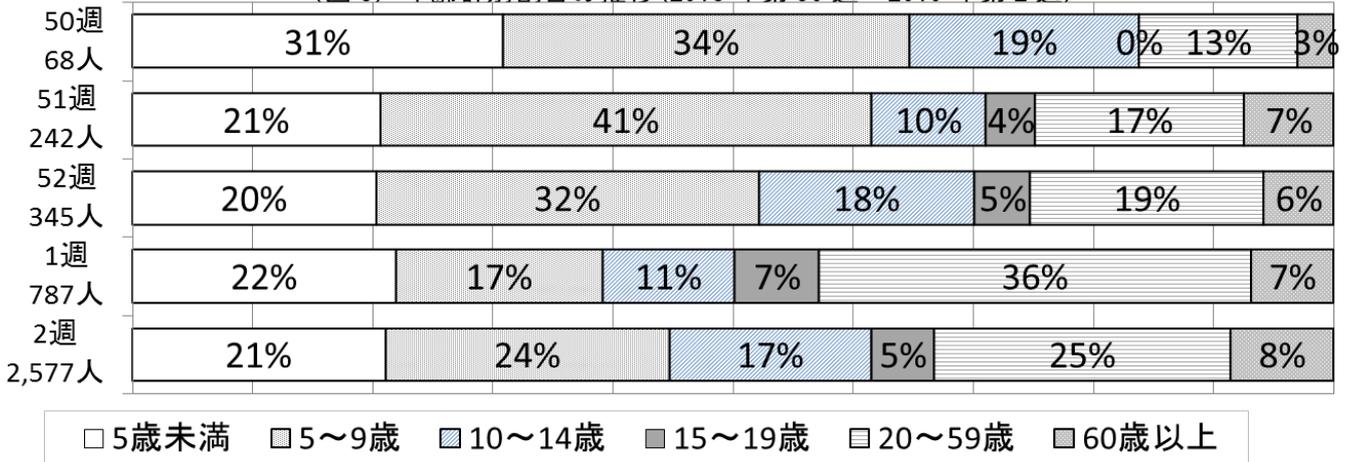
インフルエンザ情報 《県内第2週、全国第1週（再掲）》

□ 県内第2週インフルエンザ発生動向

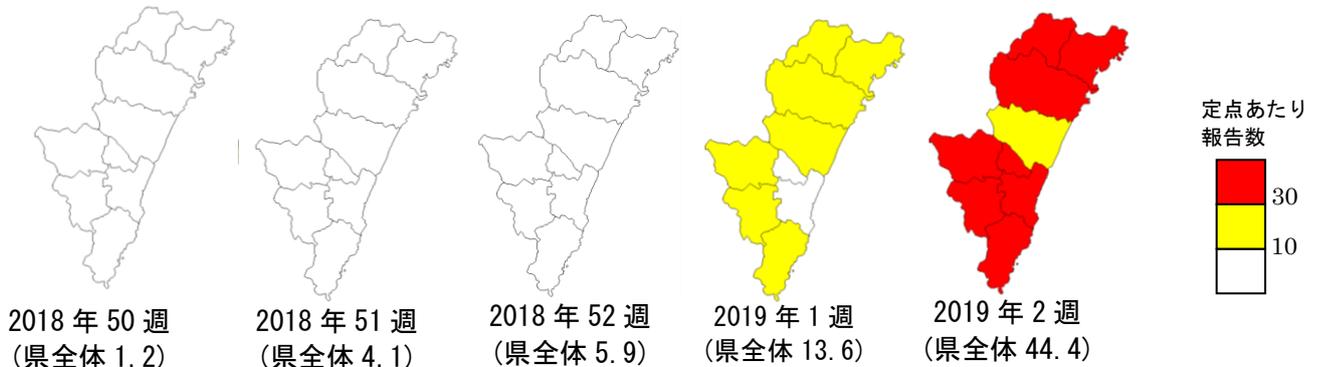
2019年1月7日～1月13日までの1週間で2,577人（44.4）の報告があった。前週の約3.3倍と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*（32.3）の約1.4倍である（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の21%、5-9歳が24%、10-14歳が17%、15-19歳が5%、20-59歳が25%、60歳以上が8%を占めている（図3）。 * 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値



(図3) 年齢群別割合の推移(2018年第50週～2019年第2週)



保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2018年第50週～2019年第2週



□ 全国第1週インフルエンザ発生動向

2018年12月31日～2019年1月6日までの1週間で78,116人（16.3）の報告があり、前週の約1.5倍と増加した。岐阜県(49.1)、愛知県(46.4)、北海道(33.6)、高知県(30.1)からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の15%、5-9歳が13%、10-14歳が8%、15-19歳が5%、20-59歳が47%、60歳以上が12%である。